

発刊に寄せて

『村上でも、十二月に、僧侶を迎え「月経納め」という仏事を行う家がある。村上地方の十二月の風物詩としては、軒に吊された三面川の鮭の塩引がある。この鮭を見ると…』

昭和五七年（一九八二）二月五日、むらかみ商工会議所二ユースの一頁に「師走」という題名で村上の「歳時記」が始まりました。それまでの数カ月間は、東京から送られてくる一般的な「歳時記」を掲載していました。村上市内（当時）全戸新聞折込のニュースでありながら、よそ事が載っていることに違和感を感じていた、当時の広報委員会の席で、広報委員長の横田三男さんが、広報委員であった矢部茂雄さんに「おめさん、書けっしょ」と、矢部さんが「書いてみっかの」ということで始まった。と記憶しています。そして、何時からか私にはわかりませんが、書き手が奥様の矢部キヨさんに替わっていました。替わったことに気づかないほど、自然に替わられていました。

執筆に当たっては、私どもの都合で、執筆者の苦労も考えず、行数を増やしたり、減らしたりと、勝手な注文をしました。そんな時でも、表現や句読点を思いのままにすることなく、紙面に合わせて、空白をほとんど空けることなく、文字数を合わせて書き上げていただきました。本当に頭が下がります。そんなこともあって、この発刊に当たっては、筆を入れられ、掲載順も曆順に並べ替えられました。

村上の「歳時記」は、静かにファンを獲得していました。始めの頃は市内の方から、「この歳時記は、どなたが書いておられるのですか」、「〇月号に載っていた話しをもっと知りたい

のですが」、「とても懐かしく思いました」などなど。そして、平成一〇年（一九九八）、インターネットの時代がやってきました。初めは高齢の方々には馴染みが薄かったものの、何年かすると遠方から高齢の方が電話をかけてこられて「インターネットで検索していたら、そちらのホームページの『歳時記』に〇〇という事柄が載っていたのだが、もっと詳しく聞きたいので、書いた人を紹介してくれないか」、そんな問い合わせも、当たり前になっていました。

半世紀ほどの年齢の私にとっても、小さい頃に覚えのある事柄に出会うと、とても懐かしく、そのときの町の風景や日射し、風、体温も蘇ります。しばし、心地よい時間を味わせていただくことができました。また、すっかり忘れていたものを、目の前に「ボン」と置かれたように感じるときもあり、思わず頬が緩む。そんな歳時記に出会うことも、たびたびありました。

平成一九年（二〇〇七）二月、書き始めから二五年が経っていました。何とかもう少し書き続けていたきたい。その願いを何度か聞き入れていただいた末に、とうとう矢部さんは筆を置かれました。

私は、寄せる文など書く資格もないと思いましたが、書き始めていただいた頃から広報を担当し、商工会議所の事務所の中では一番古くなったので、甚だ力量不足ですが、書かせていただきました。

書棚に置かれて、心が少し疲れたときに、そして、様々な年代の方々に、是非ともお読みいただきたい、そんな一冊です。

目次

一月……………一頁

睦月 戴き餅の祝 一月一日 のさかけ 鏡餅
お正月さま(一) お正月さま(二) 若水
さくら飴 書き初め 買い初め 初荷 仕事始め
七草(一) 七草(二) 蕪民将来のお札 蔵開き
だんご木祝い アマメハギ(一) アマメハギ(二)
嫁祝い 若衆仲間入り 太子講 針打ち煎餅
初夢

二月……………一三頁

如月 朔日、十五日 節分の豆まき 村上英学校
初午(一) 出世稻荷 初午(二) お稻荷さま
おとわ吹雪 十日町 蓑 速成看護婦講習会
与謝野晶子の歌碑 ふかぐつ バンバコ 竹下駄
雪下駄 馬橋 雪障子 機織り 雪おろし
オハチチグラ 雪どう なぞかけ

三月……………二四頁

弥生 くつわ団子 卒業式 「新潟新聞」から
雪解けのころ(一) 雪解けのころ(二)
「三月十日」集団疎開児童の帰京 あさづき
雪割り かあごめかごめ 田の神様 つばき笛
仏海さま 殉職白川訓導碑 鹿子(シカ)魚
いか(胤)あげ ふきのとう 味噌煮 お手玉
雪やけ 弁当の匂い おつむてんでん
瀬波防砂林

四月……………三五頁

卯月 鮭の子 雛祭(一) 雛祭(二) お雛さま
草餅(一) 草餅(二) 町屋の人形さま巡り
電気ついた 一年生 瀬波温泉の噴湯
まじない餅 青い目の人形 しらす(白魚)
ざっこすくい(雑魚掬い) 野の草たち お城山
お城山の桜 てんまり 防空頭巾 遊山
どもこも 仕事の修業 村上産婆学校
待っていた春

五月……………四七頁

皐月 庚申さま 八十八夜 背守り お釈迦さま
お釈迦さまの日 七湊の薬師さま
加賀町の稻荷さま 春のすすはき(一)
春のすすはき(二) 茶のころ 茶札 茶と人びと
茶揉み歌 春鰯 肩組んで片町： サツキ衣装
てんまり 春の遠足 下渡の渡し(一)
下渡の渡し(二) 郵便箱の歌 カッコウ 彗星
種痘の開始

六月……………五九頁

水無月 夏服 かんかん帽 田植休の日記
男の子の節供 菖蒲湯 かしっ葉餅 鯉幟り
笹の葉と柏っ葉 田の草とり 屯田兵の出発
村上での芭蕉と曾良 夏越さま 高張番
くわご(桑の実) 水撒き 蚕さま 手風琴
海人草 青い目の人形 螢 サナブリ
首かけ地蔵 雨だれ テングサ桶

七月……………七一頁

文月 羽黒神社の注連縄 天草の海
キンヌギの朔日 オシヤギリ 神馬
おまつり下駄 やれかか(先太鼓(さきだいこ))
さくら提灯 行きあい サークスの子
見世物小屋 お羽黒様のお祭り
オシヤギリのけいこ 明治の羽黒大祭
羽黒神社祭礼の神馬 寛文年間の祭礼
羽黒神社の宵祭り お神輿さま 丑湯治 天王様
鯛ぼんぼり 地蔵様 地蔵様の祭り
北海に捧げて

八月……………八三頁

葉月 電話開通 岩船の七夕 七夕さま
安政六年のコロリ お盆と子ども
味噌つけ団子(一) 味噌つけ団子(二) 盆踊り
享保の頃の盆踊り 獅子舞 獅子舞の稽古
七夕祭の押絵ぼんぼり 水鏡 ヒゴリ 雷さま
川泳ぎ テングサの海 陸湯 蒸気茶屋
井戸替え 笹の実 三山講参り 街灯が点いた
筏場の風

九月……………九五頁

長月 風祭(一) 風祭(二) 風の三郎 瀬波祭
耕雲寺の開山忌 飛行機の飛来 月 とりそめ餅
お月さま 十五夜さま お彼岸 伊能忠敬と村上
岩船郡物産陳列館 お留川のお濠い いなご(蝗)
鐘撞堂 日銭講 チンドン屋 秋の遠足
蕎麦の花 人力車 乗合自動車 松原名残りの松
明治の夜学校

十月……………一〇七頁

神無月 交通安全デー 米進駐軍瀬波上陸
戸たての薬師 菊の節供 栗の節供
秋季大運動会 豆おとし 岩船祭
岩船の木遣り歌 天保四年の津浪 停車場
ツツレ刺せ カラス 亥の子餅 初鮭
困炉裏ばた きのこ汁 自転車 映画会 遠足
針仕事 塩木流し 鮭川の詠 困炉裏ばた

十一月……………一一九頁

霜月 鉄道開通 愛国婦人会誕生
金神様のお祭り 大根・蕪の年夜 袴着(一)
袴着(二) 鮭の宮まいり(一) 鮭の宮まいり(二)
村上第七十一国立銀行 山の神様(一)
山の神様(二) 恵比須講 お濠い 大根干し
冬囲い 付木 こたつ(一) 炬燵(二) 火吹竹
はさ木 四角提灯 映画館 種川の大小屋 柿
てんまり歌

十二月……………一三一頁

師走 川浸りの朔日 太陽暦の布達 古月祓
押つけもっこ 夜廻り 製糸場の汽笛 藁仕事
ストーブ マント 置きこたつ
恵比寿様の年取り 大黒様 十二月の雪 煤掃き
義士中村勘助 水神様 松迎え 雪やこんこん
お大師様 納豆の年夜 餅搗き 歳夜の火 年夜